

【外科】

胆石症（主に胆のう結石症）について

国吉病院

医師 木下 貴史 さん

胆石症は胆のうに多く、胆管や肝臓にできる結石症のことです。

胆のうは肝臓の下にある小袋状の器官で、胆汁という消化液を一時的に蓄え濃縮する働きがあり、食事をすると収縮し、胆汁が腸管へと排出され、食物の消化を助けています。胆石の種類はさまざまですが、特に多いのはコレステロール系結石です。胆汁中の余剰なコレステロール成分が結晶化してできた結

石で、近年では食の欧米化に伴い増えつつあります。

胆石症は、すべての方に症状が現れるわけではありません。胆汁の流れが悪くなったり、細菌感染を起すと、急性胆のう炎となり、主に腹痛（右季肋部痛）、発熱、時に黄疸を伴う肝機能障害を引き起こし重篤化する場合があります。治療は抗生剤の点滴投与、内視鏡を用いた減黄術（内科的加療）、原因を取



り除く胆のう摘出術（外科的加療）等があります。当院では各種検査（超音波ⅡUS、コンピューター断層診断装置ⅡCT、磁気共鳴画像診断装置ⅡMRI）、内科的加療をはじめ、低侵襲な腹腔鏡下手術にも対応しております。気になる方は一度ご相談ください。

医療法人三和会 国吉病院

高知市上町1-3-4

☎088-875-0231

【診療時間】

午前9:00～正午

午後2:00～午後5:00

※土曜日は午前診療のみ

【休診日】土曜日午後・日曜日・祝日

※急患は時間外でも診療いたします

【診療科目】

消化器内科・循環器内科・

消化器外科・緩和ケア内科・

整形外科・内科（ペインクリニック）他